平成２１年度第３回

宝塚市廃棄物減量等推進審議会議事要旨

ホームページ掲載用

平成２１年１２月２１日開催

平成２１年度　第３回　宝塚市廃棄物減量等推進審議会議事録

【日　時】平成 21 年 12 月 21 日(月)　午後１時 30 分～４時
【場　所】宝塚市クリーンセンター管理棟　３階会議室
【出席委員】委員 22 名中 14 名（2 名は所用のため遅れて出席)。次のとおり
中丸会長、原田副会長、北野委員、草野委員、寺本委員、中野委員、浜崎委員、神木委員、稲野委員、藤井委員、中村委員、川口委員、深田委員、皆川委員
(専門部会)、池田委員、喜多委員、宮田委員、森住委員

１　開会

開会宣言
市よりあいさつ
委員 22 名中 12 名が出席。過半数に達しており会議は成立

２　議事録署名委員の選任

順番により、北野委員、草野委員を選任

３　資料説明

コンサルタントから資料説明

４　議事

中丸会長：資料説明について、ご意見・ご質問をどうぞ。

深田委員：経済性の中に今後削減可能な経費は入っているのか。２５％の二酸化炭素の削減は考慮されているのか。また、この二酸化炭素量は宝塚市の何％に相当するのか。

事務局：二酸化炭素の排出量については、地球温暖化対策推進法により定められ数値目標はこれから検討していく。また、削減量の８千ｔは宝塚市の年間推定二酸化炭素排出量９０万ｔの内０．８％程度を占めている。削減可能な経費については、焼却費用の積算等の中に含めている。

深田委員：選別作業を２カ所に分けているのを一緒にして、1 カ所にしたらどうかという意見があったかと思うが、それは入っているのか。

事務局：前回も説明したが、現在、プラスチック類を収集後、市が容リプラを選別している。容リプラについては容リ協会の管轄となる。今のご意見については今後の方向

性としては考えられるが、現在の制度ではできないようになっており、2 カ所から１カ所への考慮は入っていない。

深田委員：了解した。

中丸会長：ご意見・質問がなければ、５つの指標の重み付けについて議論したい。専門家会議で A～C 案を作成した。

A 案は、重み付けをせず、５つの指標に 20 点ずつ与えた場合である。

B 案は、指標１～３の「環境性」を重視した内容である。「環境性」の中では二酸化炭素排出量を重視している。また、経済性もやはり大事ということで 30 を配点した。

C 案は、経済性を重視した案である。また、市民の協力が欠かせないことから、配点を多くした。「環境性」の３つの指標は 10 点ずつの配点とした。

これらをもとに議論していきたい。

寺本委員：C 案は分別ごみを混焼する案のはずだが、「５　ごみ行政への理解と協力」の配点が 30 点になっているが、感覚的に理解しがたい。

池田委員：A 案・B 案・C 案というのは、システム A・B・C と混同しやすいため１案・２案・３案としてほしい。重み付けの C 案は分別ごみを混焼する案とは違う。

専門家の会議では、宝塚市のごみに関わってこられた審議会の方々に価値判断をしていただくのがよいという結論になった。環境、経済性、市民の協力について、何をどれだけ重視するべきか、考え方の案を出した。

原田副会長：重み付けの３案で、「５　ごみ行政への理解と協力」の配点が 30 点になっている点について。専門部会では、単に分別の協力が得られるかどうかではなく、分別が安易なほうへ流れることについても市民は批判的になるのではないかという観点も含め、配点を高くしてもよいのではないかという意見があった。

藤井委員：重み付けの３案について、「２　環境負荷性」を 20 点、「４　経済性」を 30 点にしてもよいと思った。１～３案について、配点を少しずつ変えて決定していくことになるのではないか。

中丸会長：他に案があればお願いしたい。なければ、今のご意見の案を追加し、４案から決定していきたい。

神木委員：「４　経済性」をどれだけ重視するかは、宝塚市の財政と直結する。３案で「４　経済性」に 40 点の配点をしたのは、宝塚市の財政をどのように評価した結果なのか。

池田委員：審議会ではごみ有料化の検討も課題としてあがっており、やはり経済性を十分

考慮してごみ行政を進めていかなくてはならないと思うが、ここでは、経済性を重視した場合、こういう配点になるのではないか、という案を示したと考えていただきたい。

中丸会長：良い悪いは別にして、環境、経済性、市民の協力のどれを重視するか、委員の考えをお聞きしたい。

事務局：宝塚市ではごみ減量を最優先に考え、経済性については考慮してこなかった。しかし、プラスチック類の分類には思った以上に費用がかかり財政を圧迫するようになった。このため経済性の観点を含める必要があると考える。

森住委員：環境性が３つに分かれているため配点が小さく見える。書き方を、環境性の合計点を上の欄に入れ、下に３つの指標の内訳点数を書くように改めたほうがよい。

「３　環境汚染性」については、宝塚市の焼却炉で燃やす場合、それ以外の焼却炉で燃やす場合の２通りとなる。ただ、さほどの差はない。この指標は半分の配点でもよいのではないか。減った点数を環境性の他の２つの指標に配点すれば、より望ましいと思われる。

１案：「１　省資源性」25 点、「２　環境負荷性」25 点、「３　環境汚染性」10 点。

２案：「１　省資源性」12.5 点、「２　環境負荷性」32.5 点、「３　環境汚染性」５点。

３案：「１　省資源性」12.5 点、「２　環境負荷性」12.5 点、「３　環境汚染性」５点。

中丸会長：環境性の合計点数は変わらないが、内訳を変えた。宝塚市の焼却炉の性能を考慮した配点である。

神木委員：前回も申し上げたが、市長の諮問の意図がわからない。

事務局：今後のプラスチック処理のあり方について、３つの方法のどれかが絶対的に正しい方法であるとは言い切れない。このため、市民の方々にご検討いただきたいというのが趣旨とご理解いただきたい。

神木委員：環境問題なのか、財政問題なのか。これまで宝塚市のごみ行政に協力してきたが、ここにきてどのような論理で市民の納得を得ようとしているのか。明確にしてほしい。

北野委員：１～３案をすぐ決めるのはなかなか難しい。まず、環境性を重視するか、経済性を重視するかを決めたらどうか。個人的には環境性を重視するべきと考えている。

中村委員：同意見である。

寺本委員：審議会でごみ有料化の方向性はほぼ決まっていた。ただ、その前にすることがあるだろうということで、プラスチック資源化に取り組むことになった。ごみ問題は市民が時間をかけて議論を重ねることが大切である。その時間がなく、結論を急がなくてはならないことは残念だ。専門部会で検討された、重み付け案は素晴らしいと思う。これを市民ともっと議論したかったということを述べておきたい。

草野委員：前回欠席したため、話の流れがわかっていないが、今議論すべきは、来年４月から宝塚市のプラスチック類をどう処理するのかという短期的な課題である。目黒区の審議会で出された資料を添付したが、省資源とはプラスチックごみをどう減らすかということである。出てきたごみをどう処理するか、だけでは済まない。プラスチックリサイクル方法としてマテリアル、ＲＰＦ化、ケミカルがあるが、自治体は処理方法を選べないという問題がある。レジ袋抑制も大きな問題である。宝塚市のプラスチックごみをどう減らすかという議論なしに、来年４月から出てきたごみをどう処理するかという話になっている。

経済性についてはどのような業者を選ぶのかという問題になってしまう。Ａ案はできる業者が少ない、随意契約となり競争性がない。Ｂ案はできる業者が多く、競争性があるので、Ｂ案のほうが経済性は上である、というような議論になってしまう。こうした議論のみでは市民にはわかりにくい。

ただ、４月からどのように処理するかという結論は出さないといけない。この課題とは別に、もう１年かけて、市民に情報提供しつつ、プラスチック分別の仕方や処理方法、新焼却炉の規模・費用なども含めて宝塚市のごみをどうするのか、議論するべきと考える。

中丸会長：全くその通りと思う。長期的な視野に立った議論を継続していく必要がある。ただ、今回は出てきたごみを短期的にどう処理するか、結論を出さなくてはならない。しかも、科学的にこの方法が妥当であるという根拠が必要である。それをこの間の専門部会でクリアにしてもらったと言える。

神木委員：ごみ行政の転換であることを市民にどう理解させるのか。分別の変更にはたいへんなエネルギーが要る。今後、将来的なごみ行政のあり方を検討するが、とりあえずはこのように処理する、という付帯条件をつけてほしい。

中丸会長：他の委員も同じ気持ちであると思われる。答申書に重要な付記事項として、今後も継続して討議する必要があることを明記したい。分別の変更にはたいへんなエネルギーが要ることは皆さんご承知と思う。もし、市民の大きな反発が予想される場合、「５　ごみ行政への理解と協力」の重み付けは大きくなると思われる。

池田委員：検証のための資料と考えていただきたい。短期的なプラスチック処理のため、あまり大きな変更はせず、保守的にならざるを得ない。ただし、検証をする上で、

わかりやすく見やすい手法はないかと専門部会では考えた。その結果、システムＡ～Ｃの３つに絞った。この３案に絞り込む前にも中間案はもっとあった。さらに、現行のシステムにおいても、集め方・表示方法・業者選定など様々なバリエーションがある。細部に入り込むと議論がそれてしまう。わかりやすくするために、３つのシステムを示した。まず、この３つで比較する。比較の際、環境性や経済性など様々な要素がある。大きくは環境性、経済性、市民の協力というのがわかりやすいということになった。細かいことを言えば、資料に掲載している計算式がどこまで正しいのかという問題もある。しかし、可能な限りスタンダードな方法とデータを採用した。これらを元に、長年ごみ問題に関わってこられた皆さんで検証を一度やってほしい、というのが専門部会からの提案である。専門部会として、このシステムがよい、この重み付けがよい、という結論を申し上げているのではない。結論は皆さんで出してほしい。部会はその方法論を提案しただけである。

深田委員：朝日新聞に「宝塚市　プラスチックごみ　２つの処理で市民意見募集」と載っていた。びっくりした。多くの市民は、一生懸命やっているのになぜ見直すのか、という感覚である。長期的にこのような方向性で見直しているということを市民に言わないと、混乱をきたす。

事務局：市民の方々に混乱をもたらしたことはお詫びしたい。ただ、新聞記者に「プラスチックごみ処理を見直している」ということを申し上げた事実はない。行政が言ったことがそのまま記事になった訳ではない。ご理解いただきたい。

中丸会長：では重み付けについて、「環境性」と「その他」という区分でまず決を採りたい。
１案は「環境性」60 点、「その他」40 点。
２案は「環境性」50 点、「その他」50 点。
３案は「環境性」30 点、「その他」70 点。
４案は「環境性」40 点、「その他」60 点。

寺本委員：「経済性」と「ごみ行政への理解と協力」を１つの括りにしてもよいのか。

中丸会長：後で分けて評価したい。まず、環境性の重み付けで決を採りたい。会長と専門部会委員は決に加わらない。副会長は加わっていただく。

採決結果：１案３人。２案６人。３案０人。４案３人。

中丸会長：２案に決定した。環境性の配点は 50 点である。次に、環境性の３つの指標の内訳を決めたい。
１案は「省資源性」10 点、「環境負荷性」30 点、「環境汚染性」10 点。
２案は「省資源性」20 点、「環境負荷性」20 点、「環境汚染性」10 点。

採決結果：１案 12 人。２案１人。

中丸会長：１案に決定した。次に、「経済性」と「ごみ行政への理解と協力」の内訳を決めたい。

１案は「経済性」25 点、「ごみ行政への理解と協力」25 点。
２案は「経済性」30 点、「ごみ行政への理解と協力」20 点。
３案は「経済性」40 点、「ごみ行政への理解と協力」10 点。
４案は「経済性」10 点、「ごみ行政への理解と協力」40 点。
５案は「経済性」20 点、「ごみ行政への理解と協力」30 点。

採決結果：１案０人。２案５人。３案０人。４案４人。５案４人。

中丸会長：まず、４案と５案で決選投票し、上位の案と２案で最終の決選投票を行うことでよろしいか。

寺本委員：２案は「経済性」をより重視する案、４案・５案は「ごみ行政への理解と協力」をより重視する案である。前者は５人、後者は８人となる。

中丸会長：では、「ごみ行政への理解と協力」を重視する意見が多数となったため、４案と５案で決選投票することとしたい。

寺本委員：２案に賛同した人は、４案と５案なら、「経済性」の配点が高い５案を選ぶのではないか。

中丸会長：では２案の５人が５案に回ったと考え、５案に決定したい。よろしいか。

一同：了承

中丸会長：重み付けについては 10 点、30 点、10 点、20 点、30 点という配点結果となった。では、次のステップに移りたい。システムＡ案～Ｃ案について、５つの指標ごとに評価を行う。その数値化の仕方をまず決めたい。まず、単純に３点・２点・１点と数値化する方法を提案したい。最も優れているシステムを３点、次が２点、最も良くないものが１点となる。優劣がつけにくい場合は同じ点数でよい。例えば３点・３点・２点、２点・２点・１点という場合もあり得ると思われる。

では、「１　省資源性」から行きたい。システムＣ案は全量焼却のため、この観点では１点になると思われる。

深田委員：０点にはならないのか。

原田副会長：０点にすると、重み付けの得点をかけても０点にしかならない。従って０点はやめたほうがいいのではないか。

中丸会長：最も悪いものは１点としたい。「１　省資源性」では、システムＣ案は１点になると考えられる。システムＡ案が最も資源化される量が多いため３点、システムＢ案はそれよりは少ないため２点という配点になると考えられる。この配点でよろしいか。

一同：了承

中丸会長：「２　環境負荷性」について。二酸化炭素排出量が試算されている。それに従えば、システムＡ案が３点、システムＢ案が２点、システムＣ案が１点となる。この配点でよろしいか。

一同：了承

中丸会長：「３　環境汚染性」について。資料にある通り、システムＡ案とシステムＢ案は同じ評価となる。システムＣ案は最も汚染物質排出が少ないため３点、システムＡ案とシステムＢ案は共に２点という配点でいかがか。

一同：了承

中丸会長：「４　経済性」について。最もお金がかかるのが現行のシステムＡ案であるが、３つのシステムでさほど差はない。システムＢ案とＣ案ではほとんど差がないため、この２つは３点、システムＡ案は２点としたい。よろしいか。

一同：了承

中丸会長：「ごみ行政への理解と協力」について。やはり最も理解と協力が得られるのは現行のシステムと思われるため、システムＡ案が３点となる。宝塚市民は環境意識が高く、せっかく定着した分別をまた元に戻すことには強い反対が予想される。従って、システムＣ案は１点になると考えられる。システムＢ案は２点としたい。よろしいか。

原田副会長：パブリックコメントは全市民の意見を反映している訳ではないが、全量焼却が４人で、現行システムが７人となっているため、これをどう考えたらいいのか。

中丸会長:パブリックコメントへの回答 17 件のうち、現行システムを良いとしたのが７件、容リプラのみが２件、プラスチック全量焼却が４件となっている。

原田副会長：３点・２点・２点や３点・１点・１点という配点ではいかがか。

森住委員：パブリックコメントは、実情を知らないまま判断されている人が非常に多い。プラスチック全量焼却が良いとされた人も、実情を知ればおそらく意見が変わるだろう。パブリックコメントの数にはそれほどこだわらなくてよいと思われる。

中丸会長：では実情と、これまで分別を一生懸命やっていただいた経緯を踏まえ、システムＡ案を３点としたい。これはよろしいか。

一同：了承

原田副会長：現行のプラスチック分別から容リプラのみの分別に移行するのは非常にわかりにくいため、３点・１点・１点が妥当かと思われる。

中丸会長：よろしいか。

一同：了承

中丸会長：では重み付けも加えた合計点を出したい。システムＡ案が 270 点、システムＢ案が 190 点、システムＣ案が 160 点となった。これでよろしいか。

一同：了承

中丸会長：では、検討評価の結果、現行システムの維持を審議会提案としたい。

最後に付記事項についてご意見をいただきたい。これまでのご意見は以下のとおりと考える。

①環境性を考慮しつつできるだけ経済性を確保するべきであり、業者の競争性を確保し、コストを抑制していく必要がある。

②今回は限られた時間の制約の中での討議であり、プラスチック類の分別の事後的な処理のみ検討した。システム自体をもっと包括的に継続的に検討していく必要がある。

他にご意見があればお願いしたい。

宮田委員：ごみ排出量自体を抑制する方策の検討が必要と考える。

中丸会長：この点を付記することでよろしいか。

一同：了承

深田委員：プラスチックごみのうち残渣として返される量がかなり多い。市民が分別を徹底できるようにすることが必要である。プラスチックに限らず、燃えるごみの中に

紙類が大量に入っていることも多い。
中丸会長：ごみ問題に対する意識向上、分別のやり方の啓発などを継続的に推進していくことを付記事項としたい。よろしいか。

一同：了承

寺本委員：瀬尾委員の意見書の中に、付記すべき事項がいくつかあると思われる。残渣を減らす取り組み、「ごみ有料化への布石」で書かれている情報発信のあり方、選別システムの継続的検討など、今後も継続して取り組むべきことをまとめて記載する必要がある。

浜崎委員：宝塚市には3,900名の外国人が住んでいる。言葉や習慣がわからないためごみ出しの問題が生じている。外国人に分別がわかりやすいツールを作る等が必要である。

中丸会長：外国語で書かれたパンフレットなどの整備が必要になる。

森住委員：すでにあるが、わかりにくい。

草野委員：市民への説明のやり方について。答申後、市民にこの答申内容をどう説明責任を果たしていくのか。それは議論されるのか。

中丸会長：諮問に対する答申は本日の討議までである。その後については、要望を出していただき、付記することで継続される。

草野委員：たいへんとは思うが、ここまで問題が大きくなってしまったため、自治会単位で説明会を行うといったことをしないと、収拾がつかないのではないか。検証結果をきちんと伝えてほしい。

中丸会長：ぜひ実施していただくよう、付記したい。

事務局：自治会長と相談の上、答申内容の説明を実施していきたい。

神木委員：スーパーでの店頭回収など、企業との連携が必要と思われる。市民にもＰＲしてほしい。

中丸会長：過去の審議会でも同様の意見をたくさんいただいている。今後も継続して取り組んでいただくよう、付記したい。

原田副会長：皆様からご意見としてあげられるように様々な課題があり、議論を継続する

必要がある。その中で検討を進めていけばよい。
中丸会長：皆様から重要な課題をご指摘いただいた。ぜひ、今後のごみ行政にいかしてほしい。これまでの検討経緯を踏まえ、事務局が答申案を用意している。今から配布するのでここで確認したい。

事務局：(答申案を朗読)

中丸会長：ご意見があればどうぞ。

神木委員：答申の文章はこんなものなのか。

事務局：誤解のないように、かちっとした文章にした。

神木委員：前市長のことも答申に掲載するのか。

事務局：経緯として記載した。

神木委員：いつまでも引きずる必要があるのか。市民としては、またあの事件かという感じで、快くない。

中丸会長：前市長の件に触れた３行をカットすることにしたほうがよろしいか。

寺本委員:忘れたいけど忘れてはならない件である。経緯の記録としても残すほうがよい。

北野委員：同意見である。

中丸会長：私も残したほうがよいと思う。残すことでよろしいか。

一同：了承

中丸会長：付記事項の文章については、皆様のご意見を踏まえ、事務局で詰めたい。付記事項を明記することで、この答申を提出してよろしいか。

一同：了承

中丸会長：今後のスケジュールについて。事務局から説明を願う。

事務局：今後のスケジュールについて。答申を 12 月 28 日までに市長に提出したい。時間がないため、付記事項の文章については、会長に一任していただきたい。その中で、皆様のご意見を包含していきたい。

原田副会長：答申案では「プラスチック類の分別・処理のシステムについて継続して評価・検証すること」となっているが、プラスチック類に限らず、ごみ問題全体について市民が議論していけるようにしてほしい。

事務局：今のご意見については答申文に反映していきたい。

中丸会長：審議会委員、専門部会委員の方々を含め、皆さんご協力ありがとうございました。これで審議会を閉会します。

以上をもちまして本日の会議を終了します。

（午後４時　閉会）